

県庁舎再建

震災復興のシンボル



四代目県庁舎(昭和3年) 大林組所蔵

県庁本庁舎の歴史と その魅力



四代目県庁舎新築工事(昭和2年頃)

(小尾嘉郎氏関係資料所収 県公文書館所蔵)

現在の神奈川県庁本庁舎は、四代目県庁舎として関東大震災後の昭和3（1928）年に建てられました。鉄骨鉄筋コンクリート造り地上5階地下1階建てで、その中央部には建物のシンボルである塔が立ち上がっています。粗面タイルと幾何学模様の装飾からなる外観は、当時流行していたアール・デコ様式の影響を色濃く感じさせるとともに、建物内部ではかつての貴賓室や議場などに創建当初の面影が残されています。

昭和の初めに建てられ戦災を乗り越えたこの本庁舎は、現在国の指定重要文化財にもなっている重要な歴史的建造物です。



かながわ「昭和100年」

つながる心、ともに未来へ